

第6回 「社会・意識調査データベース」 ワークショップについて

社会・意識調査データベース作成プロジェクト代表 新 國 三千代

札幌学院大学社会情報学部では学部創立当初から「社会・意識調査データベース (SORD)」の構築に取り組んできました。本ワークショップは、社会・意識調査データベース作成プロジェクトの関係者が本プロジェクトを進めて行く上で直面する問題を解決し、次の課題を明確にするために実質的な討論を行うことを目的として1992年度から毎年開催されているものです。6年目の今回は、2年程前から「SSJ データアーカイブ」活動を活発に進めてこられた東京大学社会科学研究所附属日本社会研究情報センターの方々と合同で「社会・意識調査データベース」ワークショップを開催することに致しました。本ワークショップは、1998年3月3日(火)10時から16時にわたり本学G館の「特別会議室」において下記のプログラムで行われました。

6回目を迎えた今回のワークショップでは、素データを作成・蓄積する立場から「データベース化に関する問題と課題」、利用者の立場から「素データの教育・研究における活用方法と問題」を中心テーマに設定し、これに関する報告と討論を行いました。また、これに先立ち、各プロジェクトの紹介とホームページの紹介が行われました。

当日は、学内外から参加された約40名の方々と間に活発な質疑・応答が行われ、更にレストラン「文泉」で行われた懇親会まで討論が続きました。終了後、本ワークショップは極めて有意義であったというご意見を多くの方々から頂きました。このような成果を得ることができたのは、ご報告や質疑応答が実際にデータベース構築や社会調査に携わってきた方々からのものであり、より深みのある的確な内容になっていたことがあげられると思います。そして更に、お忙しいなか周到に準備をされた報告者の方々のご苦勞によるところも大きかったと思います。ご多用中にもかかわらず、ご出席下さいました東京大学社会科学研究所のスタッフの方々や本プロジェクトの関係者、そして、熱心に耳を傾け、討論に加わって下さった学内外の参加者皆様の熱意に深く感謝致します。また、ワークショップの準備と録音テープの掘り起こしでは本学職員と本プロジェクト事務局の方々のご援助を得ました。記して謝意を表します。

■プログラム内容

ご挨拶

札幌学院大学社会情報学部長 狩野 陽

北海道大学名誉教授(前札幌学院大学社会情報学部長) 田中 一

(午前の部) 10時~12時 司会 新國三千代(札幌学院大学社会情報学部助教授)

社会・意識調査データベース (SORD) プロジェクトとホームページの紹介

是永 論(札幌学院大学社会情報学部講師)

石井和平(札幌学院大学社会情報学部助教授)

SSJ データアーカイブとホームページの紹介

松井 博(東大社会科学研究所助教授)

「戦後日本の労働調査」のデータベース化

仁田道夫（東大社会科学研究所教授）

（午後の部）13時～16時

司会 盛山和夫（東大文学部教授）

マイクロデータの入手と教育・研究への活用

佐藤博樹（東大社会科学研究所教授）

調査データ解析教育の現状と問題点－茨城大学での体験－

小島秀夫（茨城大学教育学部教授）

素データを用いた社会調査実習の方法と問題

稲葉昭英（都立大学人文学部講師）

コメント

大谷信介（関西学院大社会学部教授）

全体討論